

めた。

以下、製薬(営業)が465人で男女別では男子が66%を占めた。公官庁は221人で女子が53%、次いで製薬(学・研)には214人でこのうち女子が55%、また食品・化学その他は162人でこのうち女子が66%といずれも女子が過半数を占めた。その他教育は23人、その他192人(女子64%)であった。

就職者に限って見ると「薬局」が占める割合は49%であり、ほぼ半数は薬局へ就職していることが分かる。次いで病院へは就職者の32%であり、就職者の8割強がライセンスを必要とする、かつ臨床の場に進路をとったことが分かる。

また、全体としてはやはり「薬局」への就職が「病院」を上回っているが、大学別に見ると全57校(学部)のうち14校では「病院」への就職が「薬局」を上回っていた。他に1校では同数であり、近年の「病棟業務実施加算」への対応を進める病院側の需要が大きかったことがうかがえる。

保険薬局の動向 存在意義問われる分岐点に

厚生労働省が昨年秋に発表した「2013年度の衛生行政報告例概況」によると、13年度末時点の全国の薬局数は5万7071カ所と前年度より1274カ所(2.3%)増えたことが分かった。12年度は5万5797カ所、11年度は5万4780カ所とこの数年、再び店舗数の増加が続いている。また、12年度から病院薬剤師が病棟に常駐する業務(病棟薬剤業務実施加算の新設)がスタート。薬剤師確保が前提となるため、新卒者確保の綱引きはさらに激しさを増している。そういう意味では薬学生側にとって、就職は有利な状況にあるとはいえる。

表面的な現象はともかく、薬局業務の中身については社会的、国家的にも注文がつけられている。地域医療保健、介護も含めた社会保障インフラにおける「健康情報拠点」としての位置づけが求められているのだ。

焦点はなるべく病気にならないよう普段から健康を維持し、軽い症状は自らで対処する、つまりセルフメディケーション推進のため、薬局・薬剤師を活用するとの方針が政府(厚労省)から打ち出されている。当面、仮称「健康ナビステーション」の整備、在宅医

療に関するモデル事業が進められつつある。今後広く対応が求められよう。

今や“分業”率70%に迫る中で、薬局のほとんどが処方箋調剤、つまり「医療保険制度」の枠組みのみでの業務を行っている。そこに健康維持・増進に資するための情報等の提供、OTC医薬品等に対応、医療機関への誘導など、かつて本来薬局が持っていた多機能化へと業務シフトを求めている。

当然、在宅医療への関わりも、これまで以上に求められてくる。数年来の調剤報酬改定でも、「在宅医療」につ

いては様々な施策が盛り込まれている。GE薬普及も、その主役に位置づけられ、さらなる圧力の強化は想像に難い。

超高齢化社会の中で社会保障財源を削減し、今ある資源を有効活用する大きな仕組みの整備がされているのだ。この仕組みに乗り遅れば、膨大に膨れた薬局数は急速に萎む可能性もある。

これまで関係の薄かった地域医療機関、看護・保健職や介護関係者らと連携を深め、薬剤師の能力・機能を発揮し、患者さんのQOL向上に貢献することこそが、薬剤師・薬局が生き残る道といえよう。現状で「やってないじゃないか」と、OTC医薬品販売がほぼ全てネット販売可能になった。逆に国民、患者の「役に立っている」と広く認識されれば、薬剤師・薬局の未来はさらに広がることもなろう。2025年問題に向け、今まさに分岐点に立っている。

決め手は「患者との時間」

一歩踏み込み身近な存在に

杏林堂薬局の薬剤師である中安万里子さんは現在、姫街道店に勤務し、調剤業務をはじめ、OTC販売や在庫管理などを担当している。2012年3月に明治薬科大学を卒業し、同年4月に入社。現在は3年目を迎えている。

杏林堂薬局 中安 万里子さん

中安さんは、6年制薬学教育の1期生になる。就職に際しては、薬局薬剤師と病院薬剤師という二つの進路で迷ったというが、様々な現場を訪問した上で薬局薬剤師の道を選択。「薬局の方が患者さんと接する時間が圧倒的に長いと感じました」とのこと。

また、「私は地元が浜松市で、幼い頃から母と一緒に杏林堂薬局へ来ていました。親しみがあり、とても身近な存在」とし、「就職に当たって訪問し

た時にも印象は変わらずに良い雰囲気でした」と笑顔で語る。ほかに、自由で新しいことに挑戦する社風や、充実した福利厚生で社員を大切にしている点などにも引かれ、同社への入社を志望した。

同社入社後は総合病院の門前薬局などを経て、現在の姫街道店が4店舗目。「それぞれの店舗ごとに色々と学ぶことがありました」と話す。「最近は何かに医師の処方意図なども分かるように



なってきた、そうした面で患者さんをサポートしたり、ただ薬の説明をして終わるだけでなく、患者さんが求めていることを推察して話をできるようになればよいと思いながら仕事に取り組んでいます」と語る中安さんの表情には充実感が漂う。

また、中安さんが学生時代に抱いていた薬剤師のイメージは、「患者さんとの距離がそれほど近くないというイメージ」だったが、実際に薬剤師として仕事をしてみて、「ずっと関わっている患者さんとはすごく仲良くなれた

り、家族の話や悩みを相談してくれるようになりました。今は、薬剤師の仕事はそれだけ患者さんの身近な存在になれるのだと思っていますし、そういう時が薬剤師になって良かったと思える瞬間です」と語る。

仕事や職場を選ぶポイントとしては、「最初の情報収集はきちんと行った方がよいと思います」と指摘する。「もちろん、情報収集だけでは分からない部分もあると思うので、現場を訪問して自分の目で見させてもらって雰囲気を感じたり、実際に働いている方々の生の声を聞くことが、すごく役に立つと思います」とアドバイスする。

その上で、「私自身、6年制の1期生だったので、期待を持って見られていると感じる部分はありました。それでも、その期待に応えたいと思って努力することは決して無駄にはならないと思うので、今学んでいることも必ず将来の役に立つ、無駄にはならないという意識で頑張ってほしいです」と、後輩の薬学生たちに向けてエールを送る。

ひとりの医療人として可能性は無限大！！



アロマセラピーの様子



漢方みず堂

調剤を柱に、アロマセラピーや漢方薬局にもチャレンジ中!!
杏林堂ならではのインターンシップ・見学会のお問い合わせはこちらから...

TEL 053(453)5555(直通) e-mail saiyou-ky@kyorindo.co.jp

担当：人事部 鈴木達也、鈴木冴香

株式会社 杏林堂薬局

〒430-7713 静岡県浜松市中区板屋町111番地の2 浜松アクタワー13階

杏林堂ホームページ <http://www.kyorindo.co.jp>



杏林堂
SUPER DRUG STORE

調剤専門薬局

調剤併設型
ドラッグストア

ドラッグストア